

■知的障害のある子どもたちへの実践事例

主体的に読む喜びや知る楽しさを獲得することを目指して

島根県立出雲養護学校

伊藤 翔太 宮本 佐知子 山本 恵美子

はじめに

島根県立出雲養護学校は、知的障害のある小学部から高等部までの児童・生徒が在籍する特別支援学校です。また、肢体不自由や吸引など医療的ケアを必要とする重複児童・生徒も在籍しています。

2017年に新設された学校図書館は、校舎のほぼ中央に位置しています。各学部からつながった渡り廊下によって風雨に当たらずに行き来ができるようになり、昼休みを中心に子どもたちでにぎわっています。

マルチメディアDAISY図書「わいわい文庫」はさまざまなジャンルの図書が収まっていて、本校図書館の大切な資料の一つになっています。iPadで視聴するようになったのは、一昨年「わいわい文庫」のに入ったiPad 1台の寄贈を受けてからです。手軽に視聴でき、個別学習にも役だったことから、各学部で使うiPadでも利用できるように、マルチメディアDAISY図書の再生用アプリケーションソフト「イーリーダー」を導

入しました。今年度は小学部2台、中学部1台、高等部7台で利用しています。

実践の目的

今年度は利用できるiPadが増えたので、教職員向け図書館だよりなどでこの周知を図りながら、どのような実態の子どもたちに、どのような内容のものをどう使えるか、個別の実践に取り組み、成果や課題を教職員で共有することにしました。

以下、実践例を紹介します。

1. 個別学習での活用事例

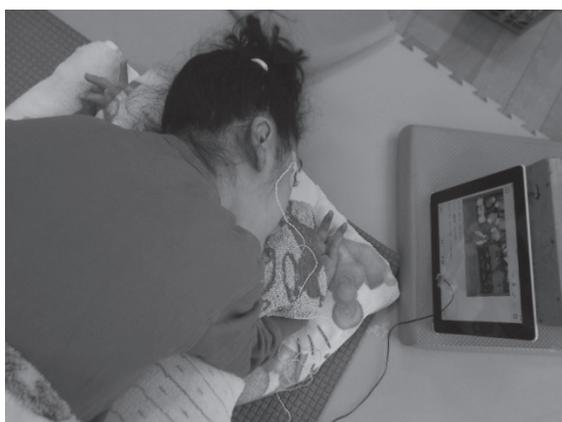
中学部2年の女子生徒Aさんは、知的障害と肢体不自由を併せ持っています。自分の思いのままに身体を動かしたり、自分で姿勢をとったりすることはむずかしいですが、自分の気持ちをまばたきやまゆ毛の動きなどの表情の変化や発声で表す姿が見られます。Aさんは自立活動を主とした教育課程で学習を行っています。

絵本については、小学部の時からた

くさんの絵本に親しんできており、絵本の読み聞かせを聞いて目を大きく開けたり、まばたきをたくさんしたり、声を出したりするなど楽しい気持ちを表す姿が見られます。

昨年度に引き続き、Aさんの自立活動の学習で、個別学習として週に1回程度タブレット端末アプリ「イーリーダー」を使って学習しています。昨年度までは、タブレット端末の読み聞かせを見聞きし、もっと見たり聞いたりしたいことを発声で伝えるということをお話をはじめると目を大きく見開いたり、続きを読んでもほしいことを声に出して伝えたりなど、意欲的に取り組もうとしている様子が見られました。

今年度は、おもに、「イーリーダー」を使って、ピエゾスイッチをタブレット端末につなげ、生徒の動きで絵本を読み進める活動に取り組まれました。ピエゾスイッチは、微細な動きであっても自分で動かせる部位にセンサーをはりつけることで、生徒の動きを読み取って入力できるスイッチです。



Aさんは、随意で動かせる部位である、まばたきを使ってふだんからコミュニケーションをとっています。今回の取り組みでは、ピエゾスイッチのセンサーをまぶたにつけて、まばたきをすると絵本が読み進められるようにしました。はじめは、センサーをつける位置の調整がむずかしく、まぶたの動きをセンサーがうまくキャッチできないため、まばたきした動きが入力できないことがありました。自分がまばたきしたことと結果が結びつきにくいので、活動の意味がわかりにくかったのですが、センサーの入力がうまくいくようになると何度もまばたきをする様子が見られるようになってきました。

まばたきは自分の意思以外での動きもありますが、ふだんのまばたきのスピードより速く力強いまばたきをしている姿から、絵本の読み聞かせが進んでいくことを理解し、期待していることがうかがえました。一つ一つの文節ごとにタイミングよくまばたきするのはむずかしいですが、自分でタブレット端末を操作できている実感があつたからか、目を見開いて何度もまばたきをして意欲的に取り組もうとしているように感じました。自分で動かせる部位を使って、自分の力で読み進められる喜びを感じられるような活動を積み重ねることで、生活をより豊かにしていってほしいと思います。

2. 小学部の活用事例

<使用の目的と方法>

小学部4年生の日常生活の指導では、毎週水曜日に2クラス合同（子ども8名）で行う「合同朝の会」に取り組んでいます。「合同朝の会」では絵本の読み聞かせの時間を設けています。おもな目的は、さまざまな絵本や言葉にふれて読書や言葉への関心を高めること、絵本のフレーズをもとにジェスチャーや身体表現を行って言葉と動作とを体感的に理解することです。マルチメディアDAISY図書を使うことで、子どもたちの興味・関心がより高まると考え、月に1～2回程度、iPadアプリ「イーリーダー」を使用してマルチメディアDAISY図書を読み聞かせに使用しました。使用時は、AppleTV付のプロジェクターとiPadとをミラーリングすることで、ワイヤレスで教室内のスクリーンに大きく投影できました。

<子どもたちの様子>

- マルチメディアDAISY図書は以前より使用する機会がありましたが、自分たちの教室で見ることはほとんどなかったためか、「何が始まるんだろう」「iPadで動画を見るのかな」といった様子で興味をもつ子どもが多くみられました。取り組みはじめ（7月頃）は、動画ではなく、絵本の読み聞かせという状況に少し不思議

さを感じた子どもが多かったようで、じっと見たり聞いたりする様子でした。

回数を重ねるうちに、大きな画面で絵が見られることや教員による読み聞かせと異なる声であることなどに、子どもたちは期待感を高めるようになりました。中には、「今日（の読み聞かせ担当）はタブレットさん?」「おじさんの声!」など言いながら楽しむ子どもも見られるようになりました。読み聞かせに使用したのは、『へんしんトンネル』『ピン・ボン・バス』『ノンタン おはよう』などです。『へんしんトンネル』では、読み上げに合わせて、「らっころっこ…」とセリフを言う子どもがいました。『ノンタン おはよう』では、「おはよう」の言葉に合わせて礼をする動きをつける子どももいました。



<取り組みの成果>

- マルチメディアDAISY図書を使用した読み聞かせを続けることで、子どもたちはより期待感をもって「合同朝の会」の読み聞かせに向かうよう

になりました。また、身近な教員以外の人の声やセリフの言い回しなど、違いに気づいてそれを伝えたり、楽しんだりできていました。

- 教員は、マルチメディアDAISY図書による読み聞かせの間、子どもたちの様子をしっかりと見ることができ、関心をもった場面や子どもたちの聞く姿に対する評価がしやすいという面がありました。
- プロジェクターとiPadとをミラーリングすることで、大きく絵本が表示され、多くの子どもにとっては見やすいようでした。また、大きいスクリーンに注目しづらい子どもには、同時に手元で見せることができました。手元で提示したり大きな画面に表示したりできることは、子どもの実態に合わせて使い分けができると感じました。

<今後について>

- 課題としては、たくさんある絵本の中から、学習する子どもたちの実態にあった本を選びやすくするために、タグなどの機能を活用して、より使いやすくまとめていくことが必要だと感じました。より使いやすい整備をすることで、多くの子どもや先生方にマルチメディアDAISY図書を使ってほしいと思います。

3. クイズ大会での利用事例

12月に、高等部の生徒による図書館ボランティアと生徒会執行部員の協力で、図書館の利用推進をPRするイベント「図書館クイズ大会」を行いました。クイズはひと月前から持ち寄って準備し、マルチメディアDAISY図書を読むとわかるクイズも作成。学年や個々の実態を考慮し、いくつかのパターンを用意しました。小・中学部や分教室からの参加もあり、昼休みの実施にはおもに生徒と司書教諭が担当し、読書の時間などは学校司書が担当しました。以下、授業での実践例です。

高等部1年生のBさんのクラス(5名)は生活単元学習・読書の時間に参加しました。このクイズに使ったのは「わいわい文庫」の『まさか』や『パパンがパン』など。Bさんのクイズに使用したのは『やさい』です。「最初に出てくるやさいは、なあに?」と伝えてから視聴してもらいました。見終わった後、用意していた2枚のカードを差し出すと、Bさんはしばらく考えてから、しっかり指で示すことができました。



この他にも、マルチメディアDAISY図書を利用したクイズには興味を示す子どもたちが多く、iPadで読む体験、読んでわかる楽しい体験を通してマルチメディアDAISY図書に親しんでもらうことができました。また、担任の先生方にも実際にマルチメディアDAISY図書を視聴してもらう良い機会になりました。

おわりに

iPadを教室備え付けのプロジェクターにつなげば、一斉授業でも簡単に使えるので、導入時に比べると便利になったと実感しています。マルチメディアDAISY図書「わいわい文庫」にはジャンルや対象年齢が幅広い図書が収められているので、学校のICT機器の利用環境が格段に向上してきていることを思えば、読書や学習に利用できるコンテンツとして使う機会は増えて

くると思われます。

そのため、この時期に、今まで本校で工夫された実践を整理して、情報共有しておくとういのではないかと考えています。

また、今年度の利用結果をもとに「リーダー」の検索画面に内容の情報や利用の目安となるタグをつけたり、新しい図書との入れ替えをしたりして利用しやすくしておくことも必要です。図書館内にもiPadやiPad用スタンド、ヘッドホンなどを常備しておき、読みに障害があっても子どもたちが自分のペースで読めるマルチメディアDAISY図書があることを知ったり、この使い方を学び、慣れる場としても、学校図書館は機能していきたいものです。

今年度の振り返りに合わせてこれらを整理し、新年度に向けて準備しておきたいと思います。

